

園長だより NO108



子ども達との生活、時間の経過はとてもはやく感じるものです。あと数日で新しい年がやってきます。今年もいろいろとありました子ども達の笑顔に元気をいただき、充実した日々が送れたこと嬉しく思っています。

来年もより充実した日々が送れるように願っています。

つながりのある仕事

長い間、保育に従事している。私はこの歳になっても時折、「なんで 保育者になったんだろう」と考えることがあります。

子ども達との生活に身を置き、自分が変化していく（成長とはおこがましくていえません）

保育に従事している者は子ども達と共に成長していくと教訓めいたことを言われている。その通りと私は思っています。

何年やっても同じことをしていることはない。子どもにはそれぞれの個性がある、その個々が集まり小さな集団を形成する。それぞれと小さな集団は無地唯一のものである。だから子どもとの活動、例えば劇活動も同じ題材を毎年やってもその構成ややり取りは異なるものになる。当然、子ども達の活動で起こる問題も異なる。こんなケースは過去にあったよな、と書いていても対応は様々である。その都度、子ども達には今回も学ばせていただいたと前向きな思いを抱く、つながりが

保育者（大人）の学びになっている。

子どもは関わる仲間や大人のつながりから様々な刺激を受けて自ら動き、成長していく、関わる保育者も子どもから刺激を受け、子どもと共に考え、行動していく、保育者に限らず人として、生きて仕事をしていることは「人とつながる」ことなのだと思う。その中でいくつになっても学びがあり、人としての成長があり、変化があるのだろうと思っている。

保育者は学びを止め、自身の変化を嫌うようであれば、その時点で保育者ではないと言われている。

天真爛漫に生きて、育つ子どもを目の前にして大人も育つことを忘れてはならない。

明治に生まれ昭和の初期に日本の保育、幼児教育の礎を築いた人がいました。

「倉橋惣三 くらはしそぞう」は育ての心という著書の中で「自ら育とうとするものを前にして、育てずしていられなく心、それが親と教育者の最も貴い育ての心である。」と言いつ育ての心は相手を育てるばかりではない。それによって自分も育てられていくのであると言う。子どもとのつながりの中、子どもの心を育てながら、我が身、心も育っているのが親であり、保育者（教育者）だと実感する。

冒頭、なんで保育の道に入ったかを考えることがあると言ったが「大人社会では自己の成長が可視化できなかつたんだろう、子どもとの生活が自己の成長を可視化しやすく実感

できる仕事として選んだのだろうと過去の自分はそう考えたのだと昨今は思うようになった。ただ自分の為が1番ではない時代に育っている。「世のため人のため」やんちゃな少年時代を送ってきたので社会への奉仕のようなところから子ども世界での仕事に就きたいと思ったのだろう。

子どもには自ら育つ力があり、自らが育とうとする前提があり、世の道理から外れかけていた私にとって保育に従事することが自らの変化が大きく期待できると思ったのでしよう。

誠実に向き合うこと

子どもに寄り添い、応答的に対応することの大切さがクローズアップされもう十数年が経過している。

ある園の話である。入園の説明会で園へのクレームは受けつけないと言われたという。クレーム（苦情）に限らず保護者からすれば願いのようなもの（〇〇してくれればいいな）要望もクレーム扱いとされるようである。

懇談会で保護者から出た願いのような要望を園長に伝えると「誰が言った、言ったのは誰だ」とひどい剣幕で苛立つという。内容によっては親を呼び出し、「園の方針に合わないのなら退園して下さい。」と退園届をちらつかせ恫喝したという。

今のご時世にこんな傲慢な経営者がいることに憤ります。結構、昔はこの手の話は

よく聞きました。じゃあ、その園の保育はと考えると、お察しの通り、管理主義的な保育であり、子どもの遊び時間もなく、大人主導で教え込んでいる内容のもので構成されている。

子どもは自らが育つ力があり、自らが育つという前提は、その園には存在しない。

これでいいのか幼児教育と言われるような体制下で保育が進んでいる。無論、そこで従事している保育者は頑張っているものの学びもなく変化もない、考えることは子どもの事よりは見栄えのこと 劇ならばどんな衣装をつくらうか 運動会ならこんな競技をしようかなと大人の目線でのこと、目の前の子ども達のことなど二の次、三の次、園の中の事はよほどのことがない限り、外部には公表されない。インスタなどで頃合い良い、動画をUPしていれば信頼は損なわない。

子どもとの生活を共にする保育士の変化も期待されているが一番は園長（設置者）が変わらなければならないと指摘する。

困難さが増す中でも保育の力を実感しその豊かな可能性を信じ保育にあたる事の大切さを心にとめておきたい。

私たちが保育をできることは保護者の皆様のご理解があつてのこと、感謝申し上げますもうすぐ冬休み、新年の喜びを実感しご家庭でのんびり、楽しく過ごして下さい。

元気に再会できることを楽しみにしています

(おおぞら保育園 園長 廣部信隆)

